

# “Puzzle City”土浦

TA：伊藤寛 班員：相原健二 沖原敦司 林崎豊 立見紀子 渡辺健大

## 1. 土浦市の概要

土浦市は、面積が91.55平方kmで、東京から北東約60kmに位置し、日本第2位の広さをもつ霞ヶ浦や桜川など多くの自然に恵まれている。また、土浦市はつくば市・牛久市と並び業務核都市として国からの承認を受けており、業務機能など東京のもつ役割の受け皿として整備を図っていく茨城県南部の主要都市である。

図1より土浦市は人口134,925人、世帯数51,947世帯であり、近年は人口・世帯数共に大きな増減はなく横ばいである。しかし、図2から分かるように少子高齢化が進んでおり、中でも高齢者人口の割合の増加率が大いめに、生産年齢人口は増加しているにもかかわらず人口割合は減少している。

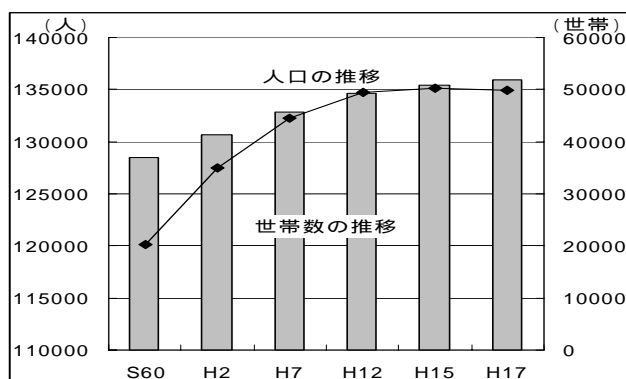


図1：土浦市の人口と世帯数の推移

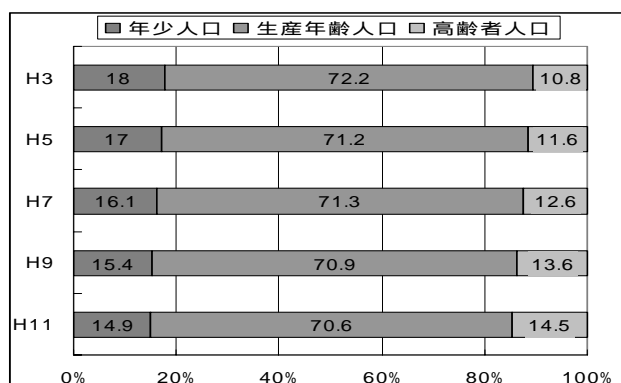


図2：土浦市の年齢別人口割合の推移

## 2. 産業

### 2-1. 産業人口

土浦市の産業について、国勢調査の就業者数からみると、昭和60年に第一次産業は3,804人(6.7%)、第二次産業15,807人(27.7%)、第三次産業37,358人(65.6%)だが、平成7年には、第一次産業2,655人(3.9%)、第二次産業19,233人(28.1%)、第三次産業46,011人(68.0%)となり、第一次産業者就業者数

が減少し、第二・第三次産業への増加傾向を示している。このことは、開発動向や都市化の進展による都市基盤の整備拡充に伴う産業構造の変化にも起因しており、このような傾向は、今後とも続くものと思われる。

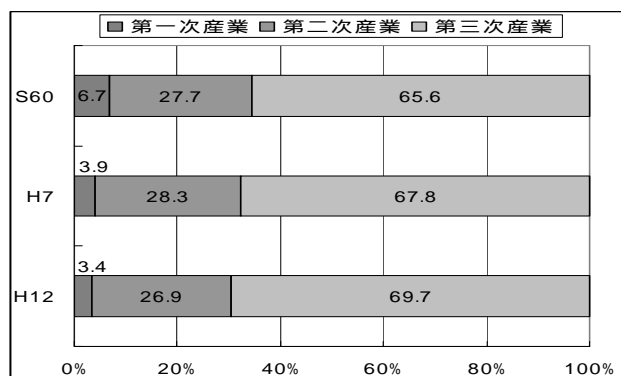


図3：土浦市の産業人口の推移

### 2-2. 農業

土浦市は、昔からレンコン栽培に適した土地柄として知られ全国一の生産量を誇っている。主に京浜方面に出荷され、レンコンパウダーを使ったレンコン麺・レンコンサブレなどの加工品の販売にも力を入れ、全国に日本一の土浦レンコンを発信している。その他、チューリップ、グラジオラス、アルストロメリア、バラ、ガーベラなどの各種の花き栽培も盛んで、特に全国有数の生産量であるグラジオラスは、県の銘柄生産の指定を受けており、アルストロメリアについても県指定銘柄推進産地となっている。

平成10～11年の茨城農林水産統計年報から農業の現況をみると、農業粗生産額は72億3100万円で、米・麦が14.2%、野菜55.7%、花き13.6%、果実4.9%、畜産類6.9%、その他4.7%となっており、果実、畜産類の生産額が低下している反面、花き、野菜関係の生産額が上昇している。

### 2-3. 工業

平成10年工業統計調査では、事業所数314社、住業者数10,554人、製造品出荷額5,344億円で、過去5年間を見ると、製造品出荷額、事業所数、従業者数ともわずかに減少している。現在土浦市では、生産性の向上を図るために設備の近代化等を促進する。さらに、本市発展の重要な役割を果たしてきた神立地区に合わせ、テクノパーク土浦北への企業誘致を促進し、新たな集積エリアとして整備を進めている。市の北部には、46社が操業する土浦・千代田工業団地がある。今後は首都圏との交通アクセスの良さを生かし、新たな工業団地テクノパーク土浦北へ優良企業の誘致を進めていく。

表 1：土浦市の工業団地

工業団地名	土浦千代田	テクノパーク土浦北
所在地	土浦市東中貫、 千代田町上稲吉	土浦市紫ヶ丘
団地面積	1 6 8 . 7 ha	4 1 . 7 ha
工場用地面積	1 3 4 . 7 ha	3 4 . 4 ha
分譲開始	S 4 1 . 5 ~	H 7 . 2 ~
立地企業	4 1 社	7 社

## 2 - 4 . 水産業

霞ヶ浦は豊かな水産資源に恵まれ昔から漁業が盛んであったが、近年、水質や生態系の変化等により、漁獲量も減少傾向にある。そのため、資源確保と漁獲高増加にむけて、わかさぎの人工ふ化・わかさぎの放流・こいの稚魚放流・えびの増殖施設整備などにも取り組んでいる。

## 2 - 5 . 商業

ここ数年、商業の従業者数と小売業の売場面積はほぼ横ばいである一方、商店数は減少傾向にある。1店舗当たり多くの従業員数を必要とする大型商業施設が多くなり、小規模な商業施設は淘汰されている。また、年間商品販売額、1商店当たり年間商品販売額共に減少傾向であり、ここ数年における不況の影響を考慮しても土浦の商業は衰退しているといえる。

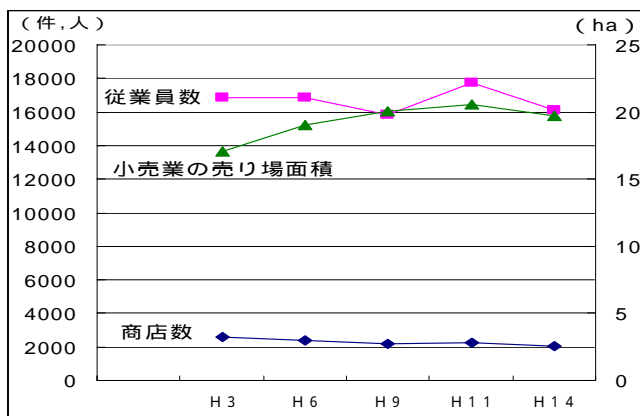


図 4：土浦市の商業の推移

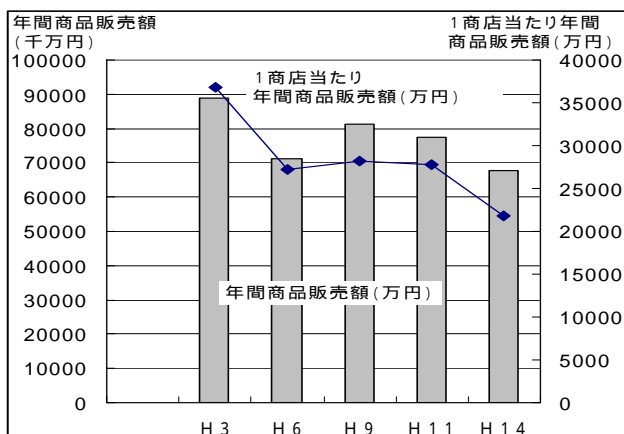


図 5：土浦市の商品販売額の推移

## 3 . 歴史・観光

西暦 1400 年代に現在の亀城公園に土浦城が築かれ、江戸時代初期より城下町の骨格が形成され、水運を利用した交通の要衝・物資の集散地として商都として発展した。戦時中の空襲の影響が少ないため、道路などの骨格は昔とあまり変わっておらず、そのため江戸後期から明治初期に建造された蔵が残っており、亀城公園とともに「歴史の小径整備事業」を行っている。

土浦の主なイベントは4月のかすみがうらマラソン、8月のキララまつり、10月の花火大会である。キララまつりの目玉とされた豪華な竹飾りは1998年に駅前再開発のために規模が縮小された。霞ヶ浦では帆曳船でのワカサギ漁にちなんで、7月下旬から10月半ばまで帆曳船のイベントも行っている。しかし、霞ヶ浦周辺の国民宿舎「水郷」をはじめとする宿泊施設は、土浦駅からの距離が遠いために多くの観光客は観光船により潮来市方面へ流れてしまい宿泊する観光客は少ない。また、1929年、航空機で初の世界一周を成し遂げたツェペリン伯号が土浦に降り立ったことから土浦を「飛行船のまち」にしようとする動きもあり、飛行船関連の様々なイベントも行われている。

## 4 . 環境

### 4 - 1 . 霞ヶ浦の浄化

土浦市では「水と人とのふれあい、未来に伸びゆく土浦」を将来都市像している。そのため霞ヶ浦の水質浄化は最も重要な環境問題である。平成3年度に水質汚濁防止法に基づく生活排水対策重点地域の指定を受けて以来、新川上流に生活排水路浄化施設を設置し水質改善に取り組んでいる。また、河川の栄養塩類(チッ素・リン)を吸収するホテイアオイの性質を利用することで水質を浄化させようとする運動も行っている。

霞ヶ浦の水質に関して、懸濁態COD値は、平成11年前後以降は全地点(西浦、北浦、常陸利根川)とも徐々に減少傾向である。窒素は平成3年の一時的な上昇以降はほぼ横ばいであり、西浦が比較的高い値をとる。リンは全地点とも多少の増減はあるものの徐々に増加している。全体的に水質の改善は見られているが、近年では停滞傾向にあり、多くの水域で環境基準の達成が得られていない。さらに、工場・事業所等の排水は規制・基準等が定められて改善が進んでいるが、近年では生活排水や農地・市街地等からの面源による負荷の比率が大きくなっている。そのため、生活排水や肥料等に含まれる窒素やリンの削減対策が遅れている。

### 4 - 2 . 生活環境

「さわやか環境条例」を定め、市民・事業者・市が一体となつてごみのない美しくさわやかな環境づくりを目指している。その他、空き地などの雑草刈りの推進や業者の軒先、近隣騒音や野焼き、悪臭など生活に密着した公害の苦情相談を行っている。

## 5. 保健・福祉

土浦市では、子どもからお年寄りまで、男性も女性も、幸せと安心で満たす支援制度が充実することを目的に「土浦市人にやさしいまちづくり計画」「土浦市地域福祉推進計画」「土浦市ふれあいネットワークプラン

第二次老人福祉・介護保険計画」などの計画がある。どの計画にも共通することとして”人にやさしいまちづくり”を挙げている。思いやりにあふれるうるおいのある社会をつくるには、家庭・地域・行政が一体となり、地域に根づいた福祉活動を築きあげることが必要であるとし、福祉サービスや福祉施設の充実を図っている。

## 6. 市街地再開発事業

### 6-1. 土浦駅前地区

土浦駅前地区は、土浦の表玄関にあたる駅前の2.1haにおいて中心市街地活性化の最重要プロジェクトとして組合により施行された市街地再開発事業である。平成9年10月に完成した再開発ビル「URALA」は、商業施設、住居施設、業務施設に加え、福祉の核となる土浦市総合福祉会館や茨城県生涯学習センターなどの公共施設を包含した複合機能施設である。また、憩いの空間としてのうらら広場や土浦駅と結ぶペデストリアンデッキなど駅周辺との一体的な整備が図られている。



写真1: 再開発ビル「URALA」

### 6-2. 土浦駅前北地区

土浦駅西口の北側、旧日本鉄道建設公団用地を含む地区約1.1haにおいて、市街地再開発事業の計画がある。土浦駅前地区に引き続き、土浦の表玄関にふさわしい土地の高度利用を図り、活力あるまちづくりを目的としている。

### 6-3. 荒川沖駅西口第1-A地区

荒川沖駅西口の約0.36haにおいて、組合施行による市街地再開発事業を実施している。駅前広場及び都市計画道路の整備とあわせて、その沿線の土地の高度利用と既存商店街の再生を図るとともに、土浦市の南部の拠点地区として良好なまちづくりを目指している。

## 7. 郊外の土地区画整理事業

土浦市の郊外部では、土浦北・神立第1・木田余・瀧田・中村西根・乙戸など、多くの土地区画整理事業を行っている。しかし、市街地と比べて低未利用地が集積しておらず、拡散している状態にある。さらに、交通の便が悪く公共施設が整備されていないなど多くの問題点を抱えている。

## 8. 交通

### 8-1. 概要

土浦市には、南北に国道6号・常磐自動車道、東西に国道354号・国道125号という、茨城県内、首都圏内主要都市を結ぶ主要道路が走っている。また、土浦境線・土浦筑波線・土浦龍ヶ崎線などの主要地方道により近隣都市と結ばれている。

また、中心市街地の活性化とともに、バス利用不便地域の緩和、公共交通利用の促進を目的に中心市街地を循環するコミュニティバス「キララちゃん」が運行している。さらに、街での楽しみと公共交通を繋ぐと、指定された店舗での買い物で還元される地域通貨「キララ」を導入している。



写真2: コミュニティバス「キララちゃん」

### 8-2. JICA-STRADA・CUETによる交通分析



図7: 道路混雑状況

国道6号は常磐道と並んで交通量・通過量の多い主要道路であるが、特に交通量の多い図6で示す地域では近年のロードサイドショップの進出が渋滞の大きな要因になっていると考えられる。国道125号・霞ヶ浦沿いの混雑からは、この地域に自動車以外の代替交通が少ないことが原因と考えられ、土浦北IC・桜土浦IC周辺の混雑からヒト・モノの流れが高速道路の依存していることが分かる。また、中心市街地に自動車が集出し、中でも荒川沖は駅前の駐車場を使ったパークアンドライドを利用する通勤者が多いため交通量が多いと予想される。

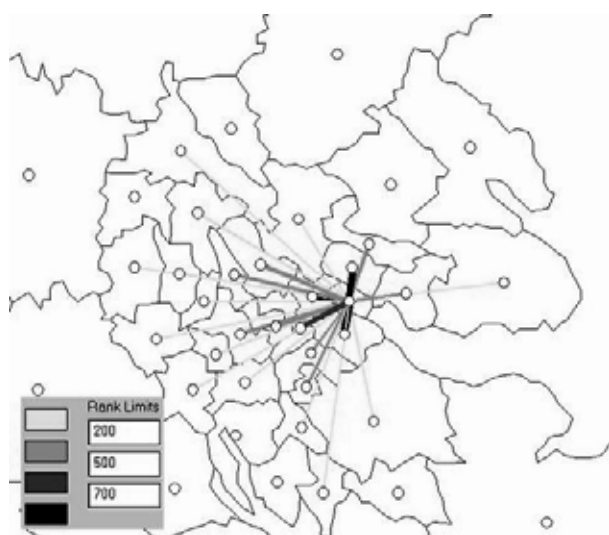


図8：発生交通量

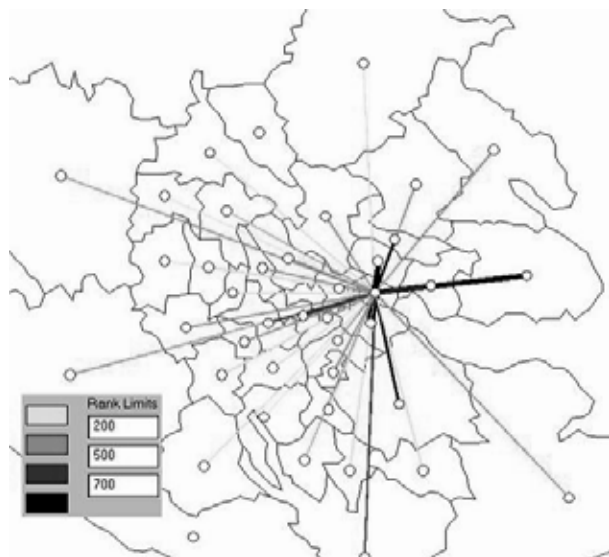


図9：集中交通量

発生交通量は、土浦市中心部からその近隣地区への交通量が多いが、特に国道6号や国道354号などの主要幹線道路で結ばれる地区への交通量が多くなっている。集中交通量も同様に主要幹線道路で結ばれる地区からの交通量が多いが、その範囲が発生交通量で示されるよりも広範囲であることがわかる。このことから、土浦市中心部はその近隣地区はもちろんのこと、県南地区の交流拠点としての役割が求められていると考えられる。

## 9. 計画の方向性



## “Puzzle City” 土浦

TXの開通により成長が期待されるつくば市に対して土浦市は対抗するではなく、「協力」「機能の相互補完」という方針を打ち出すべきである。業務核都市としてつくば市、牛久市と共に指定される土浦市は、これらの市と機能を分担しながら一体的な機能強化をはかることで独自性を確立する必要がある。また、来年合併される新治村をどう位置付け、同化させていくかとともに、市内各地区それぞれの特徴をどう生かすかという部分に関しても、「機能の相互補完」に着目し、問題解決の糸口とする。ミクロな視点では、土浦市は各地区をはじめ市全体としても少子高齢化問題や産業衰退、区画整理事業の停滞、霞ヶ浦の水質汚染など、生活圏内に多くの問題を抱えている。この問題を一つ一つ解決し、相互の関係性を高めることで、より住みやすく活気あるまちを取り戻すことを目標とする。

そのために私たちはまちづくりアンケートから、「永住願望の高さ」と「住み心地が良い」と考えている住民の多さに着目し、「住民の永住願望の強化」「機能の相互補完による住みよいまちの実現」を目的におき、土浦市をつくる要素をパズルのピースに見立てることで土浦市の新たな姿を作り上げ、提案していく。今後は、各地区レベルでの現状把握・問題点の抽出・解決案、補完しあう機能の設定を行い、地区同士、さらに市同士のより強い関係作りを模索していく。

## 10. 参考文献

- ・「第6次土浦市総合計画」土浦市発行
- ・土浦市 HP「<http://www.city.tsuchiura.ibaraki.jp/index.Shtml>」(12/16 access)
- ・茨城県 HP「<http://www.pref.ibaraki.jp/>」(12/16 access)
- ・土浦・つくば・牛久業務核都市 HP「<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/kikaku/chikei/gyomukaku/index.htm>」(12/11 access)
- ・土浦市・新治村合併協議会 HP「<http://www.tn-gappei.jp/>」(12/11 access)